

我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなきちさん」布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

## 小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

## 「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～湖北小・1年生「秋まつり」

湖北小学校の1年生で、湖北中学校区オリジナルカリキュラム「こほく・あらきふれあいカリキュラム」の一環として、生活科の学習が行われました。地域の保育園を招いて、秋まつりを開催しました。

秋まつりは1年生実行委員の「一緒に秋を楽しみましょう。」の挨拶でスタートしました。企画者の1年生も、招かれた園児たちも、これから始まる秋まつりにわくわくしています。お店役の1年生は各ブースへ準備に行き、エスコート役の1年生は園児たちの手を取って案内します。

秋まつりには8つのブースがありました。『落ち葉釣り』『どんぐりマラカス作り』『まつぼっくりツリー』『どんぐり入れ』『まつぼっくり的あて』『まつぼっくりとどんぐりの○×ゲーム』『どんぐりトロ作り』『まつぼっくりけん玉』です。ブースがたくさんあり、園児はどこで遊ぼうか大興奮です。1年生は園児に希望を聞きながら、優しくエスコートします。園児が上手に落ち葉を釣ると、1年生は「やったね、おめでとう！」と喜び、けん玉が成功すると「おお、すごいね！」とたくさん褒めました。どんぐりトロ作りでは「ここに目と口を描いてみよう。」とアドバイスしたり、マラカス作りでは「手本を見せてあげるね。」と実際に作りながら教えてあげたりと、一生懸命に自分の役割を果たしていました。楽しく遊んだ園児には「景品だよ。」と手作りの作品をプレゼントし、精一杯のおもてなしをしました。



最後に実行委員から「また会えるのを楽しみにしています。」と挨拶があり、楽しい秋まつりは大成功に終わりました。幼保小の交流の場を設定したことで、強い目的意識と相手意識が生まれ、活動が大変主体的となりました。カリキュラムの名前のとおり、ふれあうことで大きな学びを生み出すことができています。

## 「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～新木小・2年生「町のキラリをあつめよう」

新木小学校2年生生活科で湖北中学校区オリジナルカリキュラムの授業が行われました。「わたしの町はっけん」の单元で、『町探検に行って見つけた素敵なことを伝え合う』が授業のねらいです。

黒板には、学区の地図が大きく掲示されており、そこには、見つけた施設やものなどが書き出されていました。担任の先生より「今日の学習問題は『町のキラリをあつめよう』です。」と聞くと、子どもたちは「キラリ！？」「楽しそう！」と目を輝かせて、学習への意欲が満々でした。はじめに、グループごとにどんなキラリ（素敵なこと）を☆カードに書こうか、友だちと相談し始めました。子どもたちのワークシートを見てみると、そこにはインタビューしてわかったことや見つけたことが、びっしりと書かれていました。充実した町探検になったことが感じられました。書くことが決まるといつも配付された☆カードに、どんどん鉛筆を走らせます。みんなが書き終えたら、いよいよ伝えあう時間（発表）の開始です。

グループリーダーを中心に、一人一人がキラリを発表していきます。聴いている子どもたちからは、「なんだ！」、「見に行ってみたい！」といった声があがり、興味深く聴いている様子が見られました。全グループの発表が終わると、黒板に掲示してある地図は、子どもたちが見つけた町のキラリでいっぱいになりました。



单元の終わりには、写真や絵を用いて、より詳しく、より分かりやすい発表方法の工夫をし、お世話になったお家の方や施設の方を招待し、学習のまとめを発表するようです。地域の特色を生かし、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気づき、伝え合うよさや楽しさを味わえる授業となりました。

我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなきちさん」

## 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## 小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

## 「湖北台未来へつなぐプロジェクト」～西小・6年生「職業人講話」

湖北台西小学校6年生総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムに位置づけた授業を職業人講話という形で実施しました。

最初に児童が一堂に会し「始めの会」をリーダーが中心となって行い、講師の先生方の紹介と児童の意欲を喚起するような話がありました。会の後、リーダー達が6カ所に分かれる講師の先生方に丁寧にあいさつをし、各教室に案内。それに続いて子ども達は自分で希望・選択した職業の講話が行われる教室に移動していきます。

3コマの授業が組まれており、子ども達は第1から第3希望の講話を聞くことができるようになっていました。

松戸リハビリ病院からは2名のスタッフから理学療法士や言語聴覚士の仕事について説明し、実際にリハビリ用の装具を付けたりしながら、体を動かして体験的に進めていました。農業を基本に、そこから様々な創意工夫をした事業を展開している会社からは、商社から一念発起して転職したご自身の体験を基に、「夢を叶えるために」というテーマを中心とした話がありました。地元の建設会社は、建築業という仕事の概要を動画等で児童に説明した後、クイズ形式にして楽しそうに対話しながら理解を深めさせていました。自動車販売会社からは店長さんを始め、業務が異なる5名の方々が参加。店長さんからは「クラスと同じで一緒に働いている仲間の存在が大切」という話がありました。保育士は希望者が多く8人の児童がいました。また、いずれの職場にも児童は質問事項を記載したシートを持ち、必要に応じてメモをとりながら自分事として真剣な眼差しで授業に臨んでいました。

3コマの授業が終了し、終わりの会を全体で実施。児童からの感想が発表された後、講師の先生方一人ひとりから子ども達への励ましの言葉があり、うなずきながら聞いている児童の姿が印象的でした。同じ職業人講話でも一方的に話を聞くだけでなく、少人数で対話して交流しながら進めていくことの良さが際立った授業であったと思います。



## 「キャリアでつなぐ白山中区カリキュラム」～一小・1年生「ようこそ 一小ランドへ」

我孫子第一小学校の1年生がオリジナルカリキュラムの一環で地域の保育園との交流会「ようこそ 一小ランドへ」を実施しました。1年生の児童たちは、事前に生活科の授業でどんぐり、まつぼっくり、落ち葉、など秋らしいのものを収集しオリジナルの遊び道具を制作しました。遊びは4つのブース分かれており、「あきのボーリング」「まつぼっくりけんだま」「どんぐりマラカス」「どんぐりごま」が準備されていました。ボーリングのピンやどんぐりマラカスにはカラフルな色付けがされており一小児童のオリジナリティあふれるものでした。

はじめの会では、1年生から歌のプレゼントがあり「みんなはひとりのために、ひとりはみんなのために」と年長組のみんなにやさしく歌いかけました。ニコニコしながら歌を聴いている園児たちは、この会を楽しみにしている様子が溢れています。温かい雰囲気になったところで、いよいよ1年生が年長児をエスコートして一緒に活動する時間です。



「どれがいい？」年長児にやさしく問いかける1年生たちの姿がそこら中で見かけられ、年長児のみんなも様々な遊びを楽しんでいました。お店屋さん担当の児童は、みんな大きな声を出してはりきってお店の当番をしていました。手をつないでやさしくエスコートする姿、ルールの説明をしっかり伝える姿、「じょうずだね！」と拍手してほめてあげる姿どれをとっても児童たちの主体的な活動を思わせる交流行事でした。



TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月28日

我孫子市小中一貫教育だより  
第392号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子どもも
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子どもも
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子どもも

## 小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

### 「未来に残してつなぐ ふさカリキュラム」～布佐中・1年生「自分発見学習」

布佐中学校1年生がオリジナルカリキュラムの一環で、総合的な学習の時間で「自分発見学習」を実施しました。「自分発見学習」はキャリア教育と関連付けており、2年後の進路、その先の将来を見据えてカリキュラム構成されています。本時の授業では「自分の将来について考えよう」という題材のもと小学校から引き継いだキャリアパスポートとタブレット機器を持参した1学年の生徒たちがアクティブラーニング教室に集合しました。



「将来の夢について語り合おう。」「どんな生き方をしたいか考えてみよう。」先生からの提案に生徒たちはすぐさま近くの仲間と話し合いを始めました。自分の夢を互いに語り合う中で、「生きていく上でのお金」について話題になりました。そこで、先生から「お金とは一体何なの？」と問われ、答えを見つけるために話し合う子、タブレットで調べる子、自分の考えを周りの子に説明する子と思い思いにお金について考え始めました。先生から歴史と絡めたお金の成り立ちを教わり、お金に対する知識を深めた後「お金は人生を豊かにする道具ではないか。」という先生からの問いに「なるほど！」「むずかしいな～。」「ガチで納得する。」といった声があがりました。

まとめに「将来こんな生活・こんなことをしてみたい」について考え、仲間と共有しました。生徒たちから「募金とか人のためにお金を使いたいです。」「美容院を継ぎたいです。」「絵を描くための道具をそろえたいです。」と色とりどりの夢が発表されました。次回は、やりたいことをかなえるために職業について考えることになっています。布佐中学校では、小学校から引き継いだキャリア学習を中学校でのキャリア学習につなげていました。

### 「こほく・あらきふれあいカリキュラム」～新木小・5年生「高齢者との共生社会を考えよう」



新木小学校5年生、総合的な学習の時間でオリジナルカリキュラムの授業が行われました。高齢者疑似体験を通して学んだことを生かして、11/16(日)に行われる地域の催し『「こほく・あらき福祉まつり」で地域の方とふれあう』ことが授業のねらいです。なんと、5年生は総合的な学習の時間で野菜の栽培に取り組んでおり、福祉まつりに参加し、収穫した野菜を販売する予定だそうです。

導入では、担任の先生が「高齢者疑似体験をふり返ってどんなことを感じた？」と発問すると、「高齢者の大変さがわかった。」「体が動かしづらくて大変だった。」などの感想がどんどん発表されました。「そのような高齢者の大変さがわかったうえで、どのように接したら良いかを考える」ということから学習が展開されます。

まず、「足が不自由な高齢者をコホミン2階にある販売所に案内する」ことを想定します。子どもたちはタブレット端末を活用して、「手すりの反対側で支える。」「荷物を持ってあげる。」など、自分の考えを入力していきます。大型ディスプレイには、みんなの考えが映し出され、自分と同じ考え方や違うけどいいなと思った考えにリアクションをとります。協働的な学習の時間です。次に、「耳が不自由な高齢者に野菜販売の接客をする」ことを想定します。「紙に書いて伝える。」「口をはっきり動かして話す。」「相手の目を見て話す。」などの考えが出ました。

最後に、まとめの場面で「相手を気遣うこと。」「周りをしっかり見ること。」など、高齢者に限らず、全ての人のためにつきることが大切だということに、子どもたちは気づきました。野菜販売当日では、高齢者疑似体験から学んだこと、そして今回の学習を通して学んだことを生かして、全ての人を気遣い思いやりをもって接することができると思います。



# TSUNAGU

- 小から中への滑らかな接続にむけて -

令和7年11月28日

我孫子市小中一貫教育だより  
第393号

我孫子市教育委員会 小中一貫教育推進室



我孫子市マスコットキャラクター  
「手賀沼のうなきちさん」



布佐地区キャラクター  
「ふさだ だしお」

## 我孫子市が小中一貫教育で目指す子ども像

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども

## 小中一貫オリジナルカリキュラム授業実践の様子を紹介するうな～！

### 「つながる 広がる 支え合う ~優しい街久寺家~」並木小・4年生「点字体験」

並木小学校4年生のオリジナルカリキュラムの授業で、我孫子市の社会福祉協議会と同会のボランティア市民活動相談窓口「て・と・り・あ」より2名の先生をゲストティーチャーにお招きして、点字体験を行いました。はじめに点筆の持ち方について説明がありました。視覚障害者の方の見え方や白杖を持っている人が点字と関わる場面について想起し、点字の有効性について学びました。

その後、母音と子音の説明があり、「まずはやってみよう。」と点字を実際に打ってみました。ぽこぽこと紙に穴を打っていくと、「おー。」「気持ちいい。」と声が上がりました。次に「あいうえお」と打ちました。6つの点の並びで文字を表します。少し練習したら今度は自分の名前を打ちます。すると長音や濁音の表記はどうしたらよいかと質問が上がりました。点字を打つ場合には音声言語で表記することを知り、言語についての知識も広がる学習になりました。話し言葉と書き言葉について学ぶのは、高学年なので、音声言語を表記するのは初めての児童もいるはずですが、「間違えても大丈夫。」との先生の声掛けに、安心してチャレンジしていました。

点字は横書きであること、打つときは右から、読むときは左から、という説明に、紙を持ち上げて見たり、指で触ったりして、自分が打った点字を確かめていました。

最後に、生まれつき視覚障害のある方は、指先が敏感で読むことができ、見える人にとっては、指先で読むのは難しいとの説明がありました。福祉を柱にした久寺家中区のオリジナルカリキュラムらしい点字体験学習でした。



### 「湖北台未来へつなぐプロジェクト」～西小・2年生「わたしの町はっけん」

湖北台西小学校2年生の生活科の学習で町たんけんに行きました。西小学校の学区にあるお店や公共施設を探検して、詳しく知りたい場所をグループごとに訪れ、あらためて町の人やものに対して発見していく学習です。見学やインタビューをとおして詳しく知りたいことについて取材をしました。保護者ボランティアの方に付き添っていただき、11グループに分かれて自分たちの住む町を探検しました。

ケーキ屋さんやゴルフ練習場など、子どもだけでは立ち寄れない場所も、積極的に探検しました。ワークシートには、あふれんばかりに、取材記録が書かれていました。普段見過ごしてしまう見慣れた景色も、この日は違っていたようです。児童たちは、目を輝かせて、次々に見つけたものを友だちと共有しました。「知らなかったね。」「そうなんだ！」「おもしろいね。」児童たちからは、湖北台の町の魅力や新たな発見があったことを思わせる言葉が次々と出ていました。取材でわかったことを学校に持ち帰ります。

この授業の終わりに、引率でお世話になった保護者のかたに、しっかりとお礼を伝え、教室に戻りました。戻ってからは振り返りシートに取材した写真やメモをもとに学習したことをまとめました。地域の方に見守られて、教室の外で自分たちの住む町についてたくさんの発見をすることができました。

